

宗 教 法 人 カ ト リ ッ ク 札 幌 司 教 区

CATHOLIC BISHOP'S RESIDENCE
10 HIGASHI 6 CHOME KITA 1 JO
CHUO-KU, SAPPORO, 060-0031 JAPAN



カトリック札幌司教館
〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10
TEL 011-241-2785 FAX 221-3668

2015年4月5日

札幌教区の皆様へ

カトリック札幌司教区
司教 ベルナルド 勝谷 太治

教区100年を迎えるにあたって

主のご復活おめでとうございます。札幌教区は、2015年4月13日に北海道全体が一つとなって独立した知牧区(※1)となってから100年の節目の年を迎えます。現在、教区宣教司牧評議会を中心に記念行事などの計画を進めております。

その記念すべき日を迎えるにあたり、教区が一体となって次の100年に向かって歩んで行けるように、100年の節目の日である知牧区となった2015年4月13日(月)から、100周年記念式典を行う2016年9月4日(日)までを「札幌教区100周年の年」とします。

この「教区100周年の年」を、2015年年頭司牧書簡で述べました「出向いていく教会」をふまえて、「共同体」「宣教」「召命」について、一人ひとりが札幌教区の現状を改めて考え実態を認識し、その現状を打破するよう具体的に考え分ち合って過ごして頂ければと思います。

例えば、

- 信徒が宣教司牧の中心的役割を担うにはどうしたら良いかを考える
- 建物にこだわらない教会共同体を作るにはどうしたら良いかを考える
- 常に宣教している(現在進行形の)共同体とはどのようなものかについて考える

さらに、札幌教区内に滞在する外国籍の方々の数が多くなってきています。日本人共同体との交わりは地方によって差はあるとはいえ十分ではありません。外国の方々の存在は教会をより豊かに発展させる可能性を持っています。彼ら独自の共同体の絆を大切にしつつも、小教区内における彼らの立場を考える必要を感じます。彼らも札幌教区教会の大切なメンバーであり彼らの持つメンタリティーは私たち教会の宝です。第2世紀の札幌教区は多国籍教会としての在り方も模索しなければなりません。そのために何をなすべきかを、この機会に一緒に考えて頂ければと思います。

これから、教区宣教司牧評議会や各実行委員会から、「札幌教区100周年の年」に関するお知らせが適時皆様に送られていくと思いますが、司祭団・修道院・小教区・学校や福祉施設などの関連施設が心一つにして、それぞれが求めなければならない事柄を考え分ち合う機会を設けて、出来得る具体的な内容を決めて、一つ一つを「次の100年」に向けて着実に実行していきましょう。そして、私たちが現在置かれている苦難に立ち向かい、札幌教区の第2世紀のために歩み始めることができるように祈り、霊的に豊かな年としてまいりましょう。

「札幌教区100周年の祈り」※2

慈しみ深い父である神よ、あなたを賛美し、ほめたたえます。

100年前あなたのみ摂理のうちに、信徒と修道者、司祭、宣教師の多くの労苦により北海道の大地に札幌教区の礎が建てられました。キリストの教会を全道に広げることができたことを心から感謝いたします。

今、わたしたちは先人たちの信仰の土台の上に、新たな100年に向かってあなたのことばを宣教し続けることを決意します。どうぞわたしたちを聖霊の光によって照らし力強く導いてください。

あなたのことばに飢え渇く現代の人々のために、この地に生きるわたしたちが新たな使命を担い現代社会の様々な問題に立ち向かう勇気と術をお与えください。

あなたが聖母マリアを通して御子イエスをこの世にお与えになったように、母マリア様の取り次ぎによってわたしたちも日々の生活を通して、あなたの慈しみと愛をこの世に示すことができるようわたしたちを導いてください。

わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン

(札幌司教認可)

※1 教区となる前段階の呼び名の一つで、知牧区から代牧区となり、その後昇格して教区となります。

※2 「札幌教100周年の祈り」を印刷したカードを作成し別途お送りしますのでご利用ください。